

2021年度 入学試験問題

国語

(1科目 100点 50分)

2021年2月10日(水) 1時限目実施

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この注意事項は、よく読んでください。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 次のことには十分注意してください。
 - ① 解答用紙には、受験番号を記入することを忘れないこと。
 - ② 答えはすべて解答用紙に記入すること。
 - ③ 不正行為はしないこと。

解答については、間違いのないように十分注意し、記入してください。

東 奥 義 塾 高 等 学 校

一

放送をよく聞いて、問いに答えなさい。
※メモを取ってもかまいません。

□ 次の文章は、哲学者である筆者が、小学校で社会の特別授業を行ったときのことを書いたものです。筆者は授業のはじめに「※大貧民ゲーム」を行いました。文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

さて、「大貧民ゲーム」の話に戻りましょう。小学生だから「社会」の経験がないので、「大貧民ゲーム」を社会とみだてて、そこでどういうことが起こっているかを考えよう、という話でした。もちろんそれは、実際の社会とはぜんぜん違っている。しかし、大事なのは、これ自体が一つの面白いゲームなので、ゲームの本質が何であるかはそれなりに取り出せるということです。また、そこからゲームと社会の類似点についても、多少考えることができる。

さつき、このゲームでは、貧民も努力しだいでお金持ちになれるという点で、昔の王様のいる社会とは違うと言いました。それは近代社会の大事な特質です。昔の社会をゲームにすれば、ゲームは階層別に別れるでしょう。上位の王侯では権力闘争のゲームがある。下のほうにゆくほど、A性がなく、身分が固定してくる。社会的に上昇するのはますます困難になる。なぜそういう違いがあるのか。

このことは、近代社会の基本の仕組みにかかわっていて、社会科でまず考えなくてはいけない大事な点です。

王侯が支配する社会と近代社会の大きな違いは何でしょうか。一般的には、近代社会とくに民主主義の社会では、人間は「生まれつき自由で平等」だからそこで自由や平等が認められているのだ、と言われます。しかし哲学的には、この理解は大事な点を見落としている。

われわれ一人一人が自由で平等だということを、誰が認めているのでしょうか。神様？ それとも、政府？ どちらでもない。また誰か特別な人がそれを認めているのではない。重要なのは、近代社会では、人々が他人の自由と平等を、お互いに認め合っている、ということ、つまり「自由」を相互に承認している、ということなのです。

これは社会をゲームだと考えるととてもよく分かります。いま何人かの人がみなでゲームをはじめようとします。するといくつかのことをはじめの前提として認めあう必要がある。みなで合意でルールを決めること、みなで平等にルールに従うこと、ルールに従わないとゲームが成立しないので、違反したときには罰を科すことがあること、等々です。

つまりルールもとのプレーヤーの平等（対等）ということが前提で、これが守られなければ、ゲーム自体が成り立たない。だから各人がこの原則を守ろうという意志をもつ。そんなことをそれほど意識はしていないけれど、ゲームをするときには、そういう原則が必ず成立している。この原則を守らない人がいると、もうゲームは成り立たないのです。

こう考えると、近代社会以前の社会はどんな社会だったのかということも見えてくる。それはひとこと言っておいて、「普遍闘争」の社会、そして「普遍支配」の社会です。ホップズという哲学者はそれを「万人の万人に対する戦争」と呼びました。

中国や日本の戦国時代を思い出してください。ある一定の地域に、強力な権力が打ちたてられないと、そこは戦乱状態になってしまいます。戦国大名や三国志の時代です。その結果はどうなるか。あちこちで戦いがあり、弱い者は打ち負かされ、だんだん少数の強者が生き残り、最後の決戦があつて、覇者がきまります。それが徳川家康だったり、秦の始皇帝だったりするわけです。

いたるところで戦争が続き、最後の覇者が決まると、ようやくその国の戦乱が収おさまって統治がなり立ち、秩序が定まります。世の中は平和になる。しかし大きな

問題がある。ここでは、秩序は、最後の勝利者の圧倒的な武力（実力）で支えられている。つまり、支配階級と被支配階級が力づくで固定され、そのことで秩序が作り上げられているのです。

要するに、近代以前の社会の根本のしくみは、はじめに「ケンカ」がある。勝負がついたら、一番強いものが、すべてのルールを決め、全員がそれに従う。つまり「実力の絶対支配の社会」です。^{※2}ヘラクレイトスという人は、「戦いだけが世の中の秩序を決めることができる」と言いましたが、その通りです。そしてもっと驚くべきことがある。

じつは人間社会が、農耕や定住によって、食料のストックをもてるようになったのは、約一万年前です（諸説あり）。それまではその日暮らしです。そして、戦争状態は、それ以前にはほとんどなかった。^{※3}ルソーも、財の蓄積のないところでは、戦争の理由がないはずだ、と言っている。

つまり、約一万年前に財の蓄積が可能になっていらい、人間社会は、つねに実力の闘争を延々続けてきた。われわれがよく知っている **B** 的な戦争国家は、^{まろこ}蒙古、^{ペル}ペルシア帝国などです。いったん大きくなったら、とにかく辺りの国を全部攻め滅ぼし、^{隷属させ}完全な支配する。テリトリーの中の虎と似ています。回りの餌を手当たりしだいに食べ尽くす、ジャングルの中の虎と似ています。

ともあれ、重要なのは、人間社会は、つい二百年少しほど前に近代国家が成立するまで、この「実力支配の社会」しか存在しなかった、ということです。つまり、近代国家は、はじめて、「全員で作ったルールによる対等なゲーム」という仕組みとして、登場したのです。

だから、もう一度言うと、近代社会のいちばん中心の原則は、だれもが自由で平等であることを誰かが（神や、政府や、その他が）認めている、というのではなく、社会の成員がそれを「相互承認」する意志をもつ、という仕組みにあるということです。哲学ではこれを「自由の相互承認」と言います。

このことがよく理解できると、まさしくこの大原則から、近代社会のいろんな派生的な原則が現われていることがよくわかります。

出典 竹田青嗣『中学生からの哲学「超」入門 自分の意志を持つということ』

- ※1 大貧民ゲーム……トランプで遊ぶゲーム。「大富豪」と呼ばれることもある。早く上がった順に次のゲームで大富豪く平民く大貧民と階層化され、上位者ほど手札が強くなり有利になるが、場合によってはカードの強さが逆転して順位が大きく入れ替わることがある。
- ※2 ヘラクレイトス……ギリシャの哲学者。
- ※3 ルソー……フランスの哲学者。
- ※4 隷属……他の支配を受けて、その言いなりになること。

問一 二重傍線部の「ない」と同じ意味用法のものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア もはや私に帰る故郷はない。
- イ 彼の態度はどうも頼りない。
- ウ 一緒に頑張ろうではないか。
- エ あの映画は全く面白くない。

問二 空欄 **A**・**B** に当てはまる語句として最も適当なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相對
- イ 流動
- ウ 多面
- エ 画期
- オ 典型

問三 傍線部「テリトリーのうちの回りの餌を手当たりしだいに食べ尽くす、ジャングルの中の虎と似ています」の内容と表現について、次のようにまとめました。空欄 **I** と **II** は指定の字数でそれぞれ本文より抜き出し、空欄 **III** は後のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

「虎」とは歴史上の **I** (四字) のことを、「餌」とは戦争に敗れて奪われた **II** (四字) のことを表しており、近代以前の人間社会がどのようなものであったかを **III** によって表現している。

- ア 擬人法
- イ 隠喩
- ウ 直喩
- エ 倒置法

問四 この文章について述べたものとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 小学生に「大貧民ゲーム」の魅力を伝えようと、ゲームと現実社会との類似点を挙げながら説明している。
- イ 歴史上のできごとを時間の流れに沿って記述し、近代社会がどのように成立したか理解しやすくしている。
- ウ 疑問の形で論点を示しそれに答える形を反復しながら、読者が哲学的思考法を体験できるようにしている。
- エ 具体例を交えつつ筆者の意見を繰り返し述べることで、近代社会の根本的な原則がわかるようにしている。

問五 王侯が支配する社会と近代社会について、ある生徒が次のようにまとめました。空欄 **□** に当てはまる内容を三十五字以内で答えなさい。

王侯が支配する社会では最も力の強い権力者がルールを決めるのに対して、近代社会では **□** によりルールが決められる。

〔問題は次のページに続きます〕

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

仕事もうまくいかず、恋人とも別れたばかりの「僕」は、ある春の夜、仕事帰りに地下鉄を待っていた時に、ANGERINAと刺繍された※1トウシューズを拾う。「僕」は、新聞広告でその持ち主を探した。すると、ある女性から連絡があり、週末の午後に会うことになった。

彼女は紅茶を一口飲み込んだ。

「アンジェリーナって、いい名前だね。」

僕は言った。

「おじいさんがつけてくれたの。バレエのレッスンに初めて連れていってくれたのも、おじいさんだったわ。」

「そう……。」

会話はあまり弾まなかった。でも **A** 雰囲気だったわけではない。彼女は美味し^{おい}そうに紅茶を飲んでいたし、僕はその印象的な身体からだの線を見ているだけで満足だった。

ブラウスの袖口そでぐちからのぞく腕は、細くて白いのに、弱弱しさがなかった。輪郭がくつきりとし、指の先にまで意志のようなものがみなぎっていた。ティーカップをつかむさりげない仕草さえ、僕の意識の奥にしっかりとしみ込んでいった。

肩や腰はもちろん見えなかったのだが、彼女が少しでも身体を動かすたびに、それらのラインがピンと弾けるはじさまは、洋服の上からでも感じ取ることができた。フレアースカートからのびる足も同じだった。机の下でただじっとしているだけなのに、それだけで既にある美しさを形づくっていた。膝、ふくらはぎ、足首、くるぶし、爪先……①どこかに何か仕掛けが隠されているような気がして、あらゆる部分に目をやってみたが、そんなものはどこにも見当たらなかった。

「ねえ。一つ聞いてもいいかしら。あれはなあに？」

壁際の戸棚を指差して、彼女は言った。

「ああ。あれは細菌を培養するための※2シャーレだよ。」

「サイキン？」

「そう。バクテリア。化学会社でバクテリアの研究をしているんだ。」

「へえ、おもしろそう。」

彼女は立ち上がり、戸棚に近づいて、シャーレを一個一個のぞき込んだ。ほんの数歩、歩いただけなのに、彼女の足はまるで一つの物語を語ったように見えた。僕はしばらく、その小さな足から目が離せなかった。

「何のために細菌の研究なんかするの？」

「新しい医薬品を開発したり、食品を発酵させたりするためだよ。」

「細菌っていつても、悪者ばかりじゃないのね。シャーレの中の、この寒天みたいなのに、触ってもいい？」
「うん。平気だよ。」

彼女はシャーレの蓋を取り、人差し指を近づけながら、うれしそうに微笑んでいた。そういえば恋人は、いや、前恋人だった人は、気味悪がってこの戸棚には近寄らなかったなと、②僕は余計なことを思い出した。

「三年がかりでやっている僕のプロジェクトが、アレルギーの治療薬の開発なんだけど、どうもうまくいってないんだ。今までのデータ、全部無駄になりそうだ。」

「そう……。どんな仕事でも、やっぱり大変なのね。」

彼女はため息をつき、それでも好奇心一杯で、顕微鏡やピンセットやスポイトや、そのあたりに置いてある僕の仕事道具を、残らず手に取っていた。

その横顔を見ながら僕は、トウシューズをはいて踊っている彼女の姿を思い浮かべた。すつとのびた腕や、カーヴした手首や、宙に振り上げた足や、身体を支えるか細い足首や、風にそよぐように揺れるスカートの裾や……。それは、素敵な想像だった。

「君の職業は何？」

「バレリーナだったの。」

「だった？」

「今はちよつと、お休みしているの。現役のバレリーナは、トウシューズを落としたりしないわ。」

「この街の生まれ？」

「ううん。ここよりずっと西の港町で暮らしているの。この街へは、七日前に初めて来たのよ。」

彼女は最後のシャーレの蓋を閉じると、僕の方に向き直った。

「バクテリアに触るなんて、生まれて初めてで、興奮したわ。紅茶も美味しかった。ごちそうさま。なのにわたし、何のお礼も持ってこれなくて、ごめんなさい。」

B お辞儀をした。

「③そんなこと、気にすることないさ。」

僕は言った。

「本当に、いろいろとありがとう。」

彼女は玄関に立った。

「さようなら。」

「さようなら。」

彼女は、街の光の中に消えていった。

一人になってから僕は、残っていた紅茶を飲み干し、一本煙草^{たばこ}を吸い、窓を閉めた。その時、④正体の分からない漠然とした何か、僕の意識をきしませた。何だろう。僕はふっと息をひそめ、遠くに目をやった。それからゆくりと、彼女の使ったティーカップに視線を移した。その正体はすぐに分かった。彼女は、トゥシューズを持って帰らなかったのだ。

僕は一週間、またトゥシューズを眺めながらウイスキーを飲んだ。⑤どうしてこれがまだ、ここに残っているのか不思議だった。地下鉄のベンチや新聞広告や彼女の声や身体の線や、そういう事柄を一つ一つ思い出していると、トゥシューズを拾ってから、ずいぶん長い時間がたってしまった気分になった。⑥僕はANGERINAの刺繍を、指でなぞった。

出典 小川洋子『アンジェリーナ』

※1 トウシューズ……バレエを踊るときにはく靴。つま先立ちができるように、先が固くなっている。

※2 シャーレ……円形で底の浅い、ふた付きのガラス容器。細菌の培養などに用いる。

問一 空欄 A・B に当てはまる語として最も適当なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア 不釣り合いな イ 気まずい ウ かわいらしい エ 誇らしげな

問二 傍線部①「どこかに何か仕掛けが隠されているような気がして」とありますが、この「仕掛け」は「何の」ためのものですか。次の空欄に当てはまる語句を十字以内で答えなさい。

彼女の足を [] の仕掛け。

問三 傍線部②「僕は余計なことを思い出した」とありますが、「僕」が「余計なこと」だと考える理由を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 目の前に「彼女」がいるのに「前恋人」のことを思い出すのは失礼だと思うから。
イ 「僕」が「彼女」に恋をし始めている気持ち冷ましてしまうかもしれないから。
ウ 「僕」は「前恋人」に失恋していたため今はそのことを思い出したくないから。
エ 初めて会った「彼女」と別れてしまった「前恋人」を比較しても意味がないから。

問四 傍線部③「そんなこと」が指している内容として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 彼女が何のお礼も持ってこなかったこと。

イ 僕がわざわざトウシューズを拾ったこと。

ウ 僕が新聞広告で連絡をとってくれたこと。

エ 彼女が僕の戸棚をいろいろと触ったこと。

問五 傍線部④「正体の分からない漠然とした何か」とは、何だったのですか。本文より最も適当な一語を抜き出さなさい。

問六 傍線部⑤「どうしてこれがまだ、ここに残っているのか不思議だった」とはどういうことですか。次の空欄 I II に当てはまる語句をそれぞれ二十字以内で答えなさい。

僕は、 I II がわからなかったということ。

問七 傍線部⑥「僕はMERINAの刺繍を、指でなぞった」とありますが、そのときの「僕」の心情を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア トウシューズの持ち主はわかったが、結局受け渡しはできずどうしたものかと持て余している。

イ 持ち主に返すはずだったトウシューズだが、その美しさに見とれてしまい触れずにいられない。

ウ 思いがけずトウシューズを拾ってしまったが、その偶然の出来事について感慨にふけっている。

エ トウシューズを持ち帰らなかった彼女は、きっともう受け取りにこないと悲しみに暮れている。

〔四〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

※1 博雅の三位の家に、盗人入りたりけり。 ※2 三品、板敷の下に逃げ、隠れにけり。盗人帰り、さてのち、這ひ出でて家中を見るに、残り

板敷の床下に逃げ、隠れていた。 そのあとに、(博雅は)這い出して

たる物なく、みな取りてけり。 ※3 ひちりき一つを ※4 置物厨子に残したりけるを、三位、取りて吹かれたりけるを、出でて去りぬる盗人、

(盗人が 盗んでしまっていた。)

手に取って吹きなされたところ、

(博雅の家を) 出て去った盗人が、

はるかにこれを聞きて、①感情おさへがたくして、帰り来たりて言ふやう、

遠くで

おさえきれなくなつて、

言つには、

「ただ今の御ひちりききを承るに、②あはれに貴く③なぶらひて、④悪心みな改まりぬ。取る所の物ども、ことごとくに返し奉る

たった今の

お聞きすると、

改まつてしまった。盗んだ品々を、

すべて

申し上げ

べし」と言ひて帰りけり。

ようし

昔の盗人は、またかく⑤優なる心もありけり。

いさよつに

あつたのだつた。

出典

『古今著聞集』

※1 博雅の三位……源博雅。器楽(管弦)の能手。

※2 三品……博雅の三位の別の呼び方。

- ※3 ひちりき(筆策)……この時代の縦笛。
※4 置物厨子……扉のついた戸棚。

問一 傍線部③「さふらひて」を、現代仮名遣いに書き改めなさい。

問二 盗人が博雅の家から盗まなかった、ただ一つのものは何ですか。本文より抜き出しなさい。

問三 傍線部①「感情おさへがたくして」とありますが、彼をこのようにしたものは何ですか。二十字以内で答えなさい。

問四 傍線部②「あはれに」の解釈として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 気の毒で イ みじめで ウ しみじみとして エ 生き生きとして

問五 傍線部④「悪心みな改まりぬ」とありますが、その結果盗人はどのような行動をとりましたか。十五字以内で答えなさい。

問六 傍線部⑤「優なる心」とはどのような心ですか。最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手を尊重する心 イ 風流を理解する心 ウ 優しく温かい心 エ 自分の非を認める心

【五】 次の各問いに答えなさい。

問一 中学生の涼太くんは、母校の小学校の安西先生に手紙を出すことにしました。涼太くんが書いた【手紙の下書き】を読んで、後の①～④の問いに答えなさい。

【手紙の下書き】

拝啓

日増しに秋も深くなって参りましたが、安西先生におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。私は充実した中学校生活を送っています。

さて、私は今、バスケットボール部の部長として忙しい毎日を送っています。私が小学生の頃、先生は他の部員に比べて上達の遅かった私を励まし、動き方のポイントを分かりやすく教えてくださいました。安西先生の熱心なご指導には本当に感謝しています。部長となった私が大切に行っていることは基礎をおろそかにしないことと、部員全員の助け合いが大切だと思っています。これはかつてX安西先生が申していたことで、私は今このことを大切にしながら後輩たちを指導しています。そのおかげで、先日の大会ではずっと勝てなかったチームに勝つことができました。後日改めてご挨拶に伺いたいと考えておりますので、近日中にお電話で先生のご都合をお尋ねしたいと思っています。季節の変わり目です。どうぞお体を大切になさってください。

令和二年十月二日

安西 彰先生

三井 涼太

Y

①【手紙の下書き】の中に出てくる次のア～オの漢字について、部首の画数が三画になるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 過 イ 励 ウ 熱 エ 改 オ 考

②涼太くんは、【手紙の下書き】に主語と述語の対応が不適切な一文があることに気づきました。その一文の初めの三字を書きなさい。

③傍線部Xの敬語の使い方が不適切だと友達から指摘された涼太くんは、次のように書き直すことにしました。
ひらがな六字で書きなさい。

に当てはまる最も適切な表現を、

安西先生が いたことで

④空欄 Y に当てはまる、「拝啓」という頭語に対応する結語を、漢字二字で書きなさい。

問二 次の①～③の四字熟語の□には、下の意味の□と同じ漢字一字が入ります。□に入る漢字を書きなさい。

- ①□骨碎身……身を□にして砕くほど、力の限り努力すること。
- ②一□即発……少し□れるとすぐ爆発しそうなこと。危機の差し迫っていること。
- ③諸行無□……全てのは□に変化していくということ。

問三 次の①～④の傍線部のカタカナを、楷書で丁寧書きなさい。ただし、③・④については送り仮名もつけて答えなさい。

- ①オウフクはがきで送る。
- ②文化祭のシユウエキを寄付する。
- ③日本一周をココロミル。
- ④発表会の準備に時間をツイヤス。

問四 次の①～④の傍線部の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- ①大会に出場するために鍛錬を重ねる。
- ②国王に拝調する機会が与えられる。
- ③和服に合わせて足袋を着用する。
- ④美しい景色を見て心が和らぐ。

「問題はここで終わりです」

これから放送による聞き取りのテストを行います。

はじめに、解答用紙を出して、受験番号を決められた欄に記入してください。

間 5秒

次に、問題用紙の1ページを開いてください。

間 2秒

四角1は、放送を聞いて質問に答える問題です。精神科医であり大学教授である香山リカさんの『10代のうちに考えておくこと』という文章の一節を読み、次にその内容についていくつかの質問をします。文章は一回しか読みませんので、必要に応じてメモを取ってもかまいません。約一分後に開始しますので、問題用紙や解答用紙に不備があった場合には、試験監督に申し出て交換してください。

間 1分

それでは、始めます。

間 2秒

「この国には何でもある。本当にいろいろなものがあります。だが、希望だけがない」

これは村上龍の小説『希望の国のエクソダス』に登場する中学生のことばだ。いちばん夢や希望にあふれているはずの中学生が、「希望だけがない」なんてどうして言うの？ と思った人は、実際にこの小説を読んでみて。

私は、大学の授業で一年の学生たちにこの文章を見せて、こんな質問を試してみた。

「もしみなさんが、この国には○○だけがない、と言うとしたら、○○にはどんなことを入れますか」

ちようど一〇〇人の学生が質問に答えてくれた。「ないものなんか、ない」と言う人もいるかな、とは思ってたけれど、それはひとりもいなかった。みんなが「なにかが足りない」とは感じているようだ。

そして、その「なにか」はもう見事なくらい、バラバラ。数えてみたら八〇種類を超える答えがあった。

そして、そのどれもがとても深刻で重要な答えだった。自由、正義、プライバシー、愛、活気、安定、本音、ほんものの政治家、平等、ハングリー精神……。同じような答えや「足りないのは、ケーキです！」みたいな軽い答えは、ほとんどない。その中でわずかに、何人かの学生があげた答えだけが重なっていた。

「情熱」「未来」「危機感」が二人ずつ、「個性」が三人、「夢」が五人。そしていちばん多く、八人の学生が「これがない」とあげた答えがあった。

それ、なんだと思う？

答えは……「信頼」。「この国にはなんでもある。でも信頼だけがない」、こう言いたい学生が一〇〇人中八人もいる、というわけだ。

私はフクザツな気持ちになった。夢がない、希望がない、というなら、「みんな、もう少し希望をもとうよ」とそれぞれの人にはたらしかけられることもできる。でも、「信頼」は自分ひとりだけで持つことはできない。相手の言うこと、やることを信じられてこそ、はじめて生まれるものだ。

問 3 秒

それでは質問にうつります。質問は二回繰り返します。解答は全て解答用紙の決められたところに記入してください。

問 3 秒

問一 村上龍の小説では、何が「ない」と言っていましたか。

問一 村上龍の小説では、何が「ない」と言っていましたか。

問 1 5 秒

問二 筆者の予想に反して、「ひとりもいなかった」回答は何でしたか。

問二 筆者の予想に反して、「ひとりもいなかった」回答は何でしたか。

問 1 5 秒

問三 本文の内容に合うものを、次の1・2・3・4の中から一つ選び、数字で答えなさい。

1 筆者は五十人の大学生に質問し、調査した。

2 「情熱」「未来」「危機感」という回答が二人ずつ居た。

3 八十人の学生が「信頼」がないと回答した。

4 筆者は「信頼」がなくても何とかなると言っている。

問三 本文の内容に合うものを、次の1・2・3・4の中から一つ選び、数字で答えなさい。

1 筆者は五十人の大学生に質問し、調査した。

2 「情熱」「未来」「危機感」という回答が二人ずつ居た。

3 八十人の学生が「信頼」がないと回答した。

4 筆者は「信頼」がなくても何とかなると言っている。

問 1 5 秒

問四 本文の内容を踏まえて、あなた自身に「ある」と思う能力や性質は何ですか。十字以内で考えて書きなさい。

きなさい。

問四 本文の内容を踏まえて、あなた自身に「ある」と思う能力や性質は何ですか。十字以内で考えて書きなさい。

きなさい。

問 2 0 秒

これで放送によるテストを終わります。あとの問題を続けて解答してください。